清政

せい　せい

74

巻頭言

維新は敵か？味方か？

神道政治連盟京都府本部

本部長　梶　道嗣

ここ数年、政界において勢力を拡大している日本維新の会は、発足当初愛国保守を謳い、現在では発祥の地の大阪は勿論のこと、我が国、我が故郷近辺を支配するほどに拡大した。愛国保守と聞けば、我々と考えが近い政党であると思うのが普通ではあるのだが、この政党がここまで躍進してきた経緯を思い起こしてみると、幾つか不自然な点があることに気付かされる。

今でもよくテレビに出演する大阪府知事や大阪市長を歴任した橋下徹氏は、市長時代、市民に黙って大阪の電力という重要な財産を中国共産党に売却していたことが取り沙汰された。日本企業二社が入札によって受注した大阪湾岸の咲洲メガソーラー事業に、平成二十六年四月より中国の電力会社である上海電力が参入、今日に至るまで共同運営を行っているという。

これ以外にも、大阪維新の会が大阪を支配するようになってから、急激な中国化が進んでいる。ご承知のIR事業において中国系カジノ誘致・建設問題、西成区の中国特区騒動等、単に一部の業界の話だけではなく、広く一般庶民に影響するレベルまで浸透してきている。公務員の首は次々と切られ、その労働力の穴埋めとして人材派遣会社が入り、多くの中国人に取って代わっている。関西国際空港という日本の玄関口にも多くの中国人スタッフが入り込み、今や大阪は中国人だらけになってきている。我が京都にも、中国本土から多くの観光者がやってくるが、その接待役の大半を中国人が占める日が近いのではと心配している。客も接待者も同じ民族だと海外旅行の意味も無いが、それよりこの時点で完全にその都市はその民族に事実上占拠されたことになるのである。

官僚や議員秘書から漏れ伺うには、霞が

関では維新議員の評判が芳しくないという。一年目の議員から横柄な態度で官僚に詰め寄ることが多いという。普通一年目議員は、多くの場合政治に対しては素人であるため低姿勢で接してくる者が殆どであり、それが霞ヶ関での暗黙の礼儀でもあるそうだ。舐められたらいけないとの党上層部の指示もあり、上から目線での対応をしてくるという。ある官僚は「こうした党からは大人物は出ないでしょう。」とまで言っている。このスタイルは大阪では通用しても、全国レベルでは許容されないのだろう。

地方議員における重要な役割の一つに中央省庁との連携がある。コロナ禍にあって連日、全国最多の死亡者数と報じられ、吉村知事が次第にいら立ちを見せるようになったことは記憶に新しい。死亡者数が全国最多の大阪府。二月十九日までの累計死者数は三五七九人で、人口が一、五倍の東京の三四三一人を上回っている。昨年十二月十七日以降の第六波では、大阪の新規感染者数約三十七万人、東京が約五十一万人だが、死亡者数は大阪が五一五人、東京は二五九人と大きく逆転している。病院に電話しても受けてもらえず、病床使用率は東京が五九、九％に対し、大阪は七七、八％（二月十九日時点）。重症病床の使用率は四〇、四％で「非常事態の目安」の四〇％を超えていた。上から目線では官僚は動かない。

日本維新の会は保守なのか？。それなら大阪の財政再建を建前に中国共産党と手を組むのは何故か。愛国を党是に掲げるが日本国民である大阪府民を、党の躍進と自身の見栄の為、中央省庁との連携を断ち、全国一の感染率と死者率をあげ、多くの国民を死に追いやった責任をどう取るのか。この二つの説明がきちんとなされない限り、日本維新の会は、左翼系リベラルの政策を推し進める政党であると言わざるを得ない。

統一地方選挙 総括

幹事長
藤森長正

この四月、統一地方選挙が執り行われた。

四月九日投開票の前半戦では、京都府議会（定数六〇）と京都市会（同六七）の議席を争う選挙戦が繰り広げられた。今回の選挙は、維新の台頭もあり大変厳しい選挙となり、結果我々の同士議員も数名涙をのむこととなった。選挙後、維新の飛躍をみた国民府連が「非自民、非共産の中道勢力結集を目指す」として合流を提案。現在、国民と維新が協議を行っており、新会派結成に向けて調整を進めているという。

府議選では維新九人、国民四人が当選。両党で計十三人の会派となり、自民（二八人）に次ぐ第二会派となる。市議選でも議席数を伸ばした維新一〇人と国民三人に加え、維新と統一会派を組む京都党五人を含める計一八人の勢力は、共産（一四人）を上回り、自民（一九人）に迫る。実現すれば、新会派は自民党に次ぐ第二会派となる。両議会の勢力図の変更は、府と市の行政運営のみならず、来年に控えた京都市長選にも影響するであろう。

投票率は府議選が四〇・二三％、京都市議選が三九・八五％だった。

二十三日投票日の後半戦は、京都府内二つの市長選挙と八つの議会議員選挙がおこなわれた。

京田辺市長選においては無投票、向日市長選挙は、現職と新人が立候補し一騎打ち、木津川市長選挙は、現職の引退に伴い新人三つ巴の選挙戦が展開されるも何れも快勝。市町村議会議員選挙は、福知山市（定数二四）・宇治市（同二八）・城陽市（同二〇）・八幡市（同二一）・京田辺市（同二〇）・木津川市（同二〇）・久御山町（同一四）・和束町（同一〇）の五市二町で行われたが、ここでも維新は躍進するも、立憲民主・共産候補者の落選が見られ辛うじて現状を維持する結果となった。

今後は、六月十八日に南山城村長選、八月に井手町長選、向日市議会議員選（定数一八）、十月に精華町長選、十一月に亀岡市長戦が行われ、来年二月に行われる京都市長選挙まで気を緩めることなく、万全の体制をもって応援していきたい。

京都府議会・京都市会 神道議員連盟合同研修会

当会では、京都府議会及び京都市会の自民党議員団において神道議員連盟を結成していただき、定期的に研修会や懇談会を行い、政策についての意見交換や当会講師による勉強会を行っている。

本年は、リーガロイヤルホテル京都に於いて三月十一日、当連盟が推薦し、現在参議院四期目をお務めいただいている有村治子先生を講師にお招きし、二十八名の府議・市議の先生方、そして当会役員・会員二十七名が参加し開催された。

研修会は、藤森幹事長の司会で進められ、主催者である当本部梶本部長および京都府議会・京都市会両神道議員連盟会長の挨拶があり、神道政治連盟石川正人副会長および京都府神社庁田中恆清庁長より祝辞をいただいた。次に研修会に移り、有村治子先生が演壇に立たれ、「歴史的転換期に立つ日本　保守の役割を考える」と題しご講演いただいた。

先生は、「戦後の歴史」というものは今年で七十五年余りとなり、明治維新から後の近代国家百五十年の半分を占めるようになった。その七十五年の歴史は、まさに現役の世代が作ってきた歴史である。安倍元総理の国葬について、あれほど激しい反対運動が起こり、死者を侮蔑する一部の国民の姿をみて「これが戦争に負けるということか」と感じた。それは、戦後教育を含め「国」というものに思いを致さなくなってしまった弊害なのではないか。

安倍元総理は国益を第一に考え行動されており外国の元首は皆そのことを理解していたが、日本人が一番理解出来ていない。日本人の良き国民性を失ってしまっている。

戦後、私たち個人が国や社会を形成しているのだという主体的な意識は語られなくなった。しかし、国の安全があって初めて個人の平和が保たれるのだ。戦後語られることが無くなった「国」について、今こそ考えるべき時である。

と語られ、国力や国家への意識を持つことの重要性を、種々の例を挙げられてご講演いただいた。

最後に、唱歌「蛍の光」の三・四番が戦後ＧＨＱによって消された歴史を語られ、皆で四番まで合唱し研修会を終了した。

（堀川副幹事長）

京都府戦歿英霊追悼慰霊祭 及び 時局講演会

第一部 慰霊祭

去る令和四年十一月十六日、恒例による京都府戦歿英霊追悼慰霊祭および時局講演会を、リーガロイヤルホテル京都を会場に、厳粛に斎行した。

本年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染症の拡大に鑑み、やや席の間を大きくとり人数を制限しての開催となった。

慰霊祭は、まず国歌斉唱、「海ゆかば」の合唱から始まり、室川副本部長が斎主を務め、以下神社庁祭儀部員により祭員及び伶人をお務めいただいた。祭典中には、巫女によって、御霊慰めの「浦安の舞」が奉奏された。

その後、斎主以下祭員玉串拝礼の後、梶本部長をはじめ来賓の方々それぞれに玉串を手に取り、ご拝礼いただいた。

第二部 式典・講演会

慰霊祭終了の後、京都府神社庁及び京都府神社総代会と合同にて、国民精神高揚運動合同研修会・神道政治連盟京都府本部時局講演会が行われた。先ず初めに梶本部長が挨拶に立ち、その後来賓を代表して当本部顧問・京都府神社庁林秀俊副庁長、京都市会神道議員連盟山本恵一副会長にそれぞれご挨拶いただいた。

その後、明治神宮国際神道文化研究所主任研究員 今泉宣子先生より『明治神宮の戦後復興～占領政策から復興奉賛まで』と題し、ご講演いただいた。

内容の抄録は次の通り。

今泉先生は、神社とは関係の

無いご家庭に生まれられたが、学生時代より嗜んでおられた合気道を、明治神宮至誠館で稽古するようになり、そのご縁で明治神宮に関わられるようになられた。後に國學院大學で神職資格を取得され明治神宮国際文化研究所で研究員を務めになられるようになった。

明治神宮は、昭和二十年の山の手大空襲により御本殿・拝殿を始め大方の建造物が焼失した。しかし、神宮の杜は、空襲で焼け出された渋谷や原宿の民衆を守った。

大正時代の初め、明治天皇の崩御後すぐに明治神宮建設の動きは民間から始まっており、その中心人物の一人は渋沢栄一であった。帝都東京に相応しい品格のある神社を民間の力で造りたいと、東京商工会議所で明治神宮設立計画が練られたが、その時点で内苑と外苑を造ることが描かれており、そういった計画を元に、内苑は国費、外苑は広く国民の寄付を集め建設された。具体的には、奉賛会が民間人によって組織され、約一千万円の浄財を集め、外苑建設のため奉納した。また、全国より約十万本の献木があり、のべ十一万人に及ぶ青年の勤労奉仕によって明治の杜が造苑された。その杜は、樹木学者達が百年後を見据えた造苑計画によるものだった。

終戦後の明治神宮は、焼け野原に建てられた小さな仮社殿から再出発した。米国は占領政策として、明治神宮など明治維新後に建てられた神社は国家主義的施設として廃棄も検討されたが、幸い回避された。それは、ポツダム宣言受諾後から神道指令発令に至るまでの、様々な交渉の成果であった。その中心には皇典講究所の吉田茂、神宮奉斎会の宮川宗徳、当時の神社界きっての論客葦津珍彦らがいた。彼らとGHQとの様々な交渉や神社界側の激しい議論の末、今後は政府に頼らない組織のもと運営されることになり神社本庁が設立され、明治神宮もその一員となった。

一方、外苑は占領軍に接収され、外国人達のレクリエーション施設となっていた。戦前より神社境内地は国有化されていたので、戦後はその必要性に応じ無償または有償の払い下げを受けなければならなかった。明治神宮は、外苑も宗教活動に不可欠であると主張し無償の払い下げを申請したが、GHQはそれをなかなか認めなかった。その一因として、体育施設を利用していた各種体育団体や文部省が、外苑の帰属を公的機関にするよう求めていた。しかし交渉の結果、明治神宮側が外苑の管理運営を各界の有識者による管理委員会に委ねることを提案したことで体育団体等の態度は軟化し、昭和二十七年、無事時価半額の払い下げが決定した。しかしその翌年、かねてオリンピックの招致を検討していた東京オリンピック委員会は、外苑競技場を改造して東京オリンピックの主競技場とする案を議決し、国を交えた幾多の協議を経て外苑競技場を国に譲渡することになった。これが後の国立競技場である。

戦後復興の重要な動きとして明治神宮崇敬会の設立がある。これは、明治二十一年の仮社殿への仮遷座を機に結成され、四年後の昭和二十五年に行われた御鎮座三十年の諸儀式を無事完遂させた。その後二十八年には明治神宮復興奉賛会が崇敬会とは別に組織され、当初の目標を超える六億円以上の浄財を集め、御本殿以下御社殿の復興に大きな役割を果たした。

また、表参道の二百本に及ぶケヤキ並木も、空襲によりほぼ焼け落ちてしまったが、原宿で造園業を営む崇敬者が自費で苗木を植え見事復活させた。

こうして昭和三十三年、新しく建造された新社殿への遷座祭が行われ、天皇皇后両陛下の御親拝を賜った。

明治神宮は、コロナ禍中の令和二年に創建百年を迎えた。今、明治神宮創建の精神の原点に立ち帰り見つめ直し再確認する時期にある。それは、過去の歴史にこそ未来を思い描く思考の原点があるのではないかと思うからである。

（堀川副幹事長）

沖縄・京都の塔慰霊参拝団

会計職務代行者　六人部　是充

去る令和四年十二月七日及び八日の二日間、神道政治連盟京都府本部主催の「沖縄・京都の塔慰霊参拝団研修旅行」が行なわれ、梶道嗣本部長を始め、総勢二十三名が参加しました。

一日目、早朝伊丹空港に集合し結団式の後沖縄へ。那覇到着後、まず沖縄県護国神社参拝。次に、波上宮を正式参拝させていただきました。その後、当時激戦地であった宜野湾市嘉数高台公園内に建立された「京都の塔」で慰霊祭を斎行しました。祭典を斎行するにあたり波上宮の職員の方々に社務多忙の中斎場等準備をしていただきました。ありがとうございました。

今年の慰霊祭の奉仕員は、後藤重和副本部長が斎主を務め、祭員として稲本高続副幹事長と私、舞人として京都女子神職会より六人部美恵子・松井三紀両氏、典儀は藤森長正幹事長が務めました。式次第は、祭典に先立ちまず国旗掲揚国歌斉唱があり、次に斎主以下参進、修祓、斎主一拝、献饌、祭詞奏上、「常永遠の舞」奉納、「海ゆかば」合唱、「鎮魂頌」奉奏、玉串拝礼、撤饌、斎主一拝、斎主以下退下、最後に梶本部長の挨拶で締めくくられました。沖縄戦で戦歿した京都府出身者の御霊は二五三六柱に及び、参加者は各々哀悼の意を捧げ、厳粛のうちに祭典が終わりました。祭典中は風が強く、時折行き交う戦闘機のような爆音が聞こえてきたのが印象的でした。またここは米軍普天間基地を見渡すことができる場所でもありました。その風景を見ながら決して忘れてはならない現実がここにあると実感しました。

慰霊祭は今回で二十一回目を数えました。コロナもまだまだ油断できない状況でしたが、こうして慰霊祭を実施出来たことに感謝し我々の思いを伝え繋ぐことができたのではと思います。参加者は変われども、風化させることなく継続して次世代につないでいくべき当本部の大切な事業のひとつであると感じました。

二日目、バスで太平洋と東シナ海の荒波が打ち寄せる沖縄本島最北端の岬である「辺古岬」に向かいました。断崖から水平線上に鹿児島県与論島が望める岬の中心には「日本祖国復帰闘争碑」が建てられています。これはアメリカの統治下にあった沖縄が、昭和四十七年日本に返還された証として建立されたものです。

次に琉球神話にも語られる「大石林山」を見学。約二億五千万年前の石灰岩が長い歳月をかけて侵食されてできた世界最北端の熱帯カルスト地形であり、古来聖なる地とされています。奇岩や巨石、亜熱帯の森、大パノラマなど様々な表情をみせる大石林山は「やんばる国立公園」に指定されています。

次に沖縄の文化や自然などをテーマにした「琉球村」を訪れた後、那覇空港を出発。伊丹空港にて解団式を行ない、帰途につきました。

私は今回「沖縄京都の塔慰霊参拝研修旅行」に初めて参加させていただきました。これまで沖縄の地に降りたったことはありませんでした。慰霊祭では若輩者ながら祭員奉仕させていただき身の引き締まる思いでした。参加する機会に出会えたこと感謝いたします。

靖國神社京都府関係祭神慰霊祭

副幹事長　小松　隆志

桜前線の到来が間近となった三月八日、京都府関係祭神慰霊祭のため靖國神社へ慰霊参拝をさせていただきました。

参拝団は、近年のコロナ禍以前とほぼ同じ規模の二十九名のご参加となりました。

当日朝いつものように京都駅南口で結団式の後、新幹線で品川まで。その後は貸し切りバスにての移動で靖國神社へ入り、粛々と慰霊祭を斎行していただきました。

例年は三月末あたりでの慰霊参拝のため、靖國神社の境内は桜が満開となっていますが、本年は標本木もまだまだ蕾が固い状態。その反面、当会が平成二十三年に招魂斎庭に献木の一本は河津桜のため開花が早く、いつもは葉桜しか目にすることができないところ、今年はまたまだ十分に見ごろ。植樹当時をご存知の諸先輩方が「初めて咲いているところを見た」と口を揃えるように喜んでおられたのが大変印象的でした。

昼食は横浜中華街に準備していただいていたためそこまでバスにてしばしの移動。その後赤レンガパークで、海上保安資料館横浜館を見学しました。

資料館は一見倉庫のような建物で、中には北朝鮮の工作船の実物がそのままきっちりと収まって展示されていました。

展示の工作船は、平成十三年十二月に奄美大島西方海域にて、海保巡視船等の停止命令に従わず逃走し、攻撃してきたうえ自沈したものを、後日政府決定により引揚げられた船です。

全長約三十メートル、総トン数四十四トンの見るからに粗野な造りの船ではありますが、機銃や砲、ロケットランチャー等々多数の武器を積んでいて、実際海保の艦に向けそれらを使用していたとのこと。そのため巡視艇は損傷し、海上保安官三名の方も負傷されたそうです。私自身は、今回見学させていただくまで、この事件のことを全く失念しており、大いに恥じ入った次第です。

既に先の大戦より早七十八年となった今、英霊への感謝と慰霊の誠を捧げることを、これから次の世代へと繋げていくための活動と、我が国を取り巻く環境をしっかり把握し、世界と日本の秩序を守るため、何をなすべきかを、問いかけられた一日となりました。

京都府神道議員連盟
京都市会神道議員連盟

会員のご紹介

京都府議会 池田正義先生

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、世界に誇る日本の伝統や文化を後世に正しく伝えることを目的に、日本に誇りと自信を取り戻すため様々な問題に取り組んでいただいておりますことに、衷心より敬意を表します。

また、先の統一地方選挙におきましては神道政治連盟の皆様方のご支援を賜り、誠にありがとうございました。

日本には古来より、神社を中心に人々が地域コミュニティーを形成し、田を耕し水を分かち合いながら営みをつづけ、五穀豊穣を祈り、それを捧げ祈るという文化を継承してきました。私も田舎に生まれ神社で遊んだことや先輩から様々なことを教えていただき、お祭りなどを通して神様に祈ることや感謝をすることを学び、心のよりどころとして生活を支えていただいております。

近年は、人口減少や核家族化が急速に進み地域の結びつきや人々の絆が希薄化し、伝統行事や祭りを維持するのが困難というところもでてきているようでありますが、神社の奉賛会を中心に祭礼を盛大にしようと頑張っておられる地域も多くあります。

神道の精神をこれからも地域づくりに生かし、伝統ある神社を中心に地域コミュニティーの維持、発展に努めていくために神道政治連盟の皆様と力を合わせ、我が国日本の発展に努めてまいりたいと考えています。

京都市会 島本京司先生

日頃より神道政治連盟京都府本部の皆様には多大なるご指導を賜りまして、誠にありがたく深く感謝申し上げます。

私たちは多くの京都の神社や皆様との連携を深めながら、八百万の神々に守られる我が国古来の尊い寛容性と自然に根差した平和・平等の精神普及を通し、この神道の価値観がしっかりと地域に根付いた社会の活性化によってこそ、日本の伝統文化が守られ、未来に継承され、そして世界に発信することができるものと信じております。

現在コロナ禍からの脱却を果たしてもなお世界では、ロシアとウクライナ他のような戦禍や、経済発展にともなう格差の拡大、数百年に一度といわれる自然災害の多発など、様々な問題に直面する状況ですが、神道の理念をもって世界の安定と国民・市民の安寧、地域と国の発展を追求し、京都にふさわしい政策を推進すべきと考えます。

また、急激に回復を見せる観光振興においても、今後さらに世界の皆様が多くの神社を訪れ、その深い精神世界にも触れていただきながら持続可能な観光発展を目指すために、伝統的な文化と新しい価値を融合させることも必要です。

私たちの目指す社会は地域住民の連帯を図って皆様との絆を深め共に助け合う世界であり、まさに神道の教えに基づく人と人のつながりを大切にする社会の実現です。引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

あしあと

事務局からの活動報告
【令和４年 11 月から５年６月まで】

令和４年

11 月 16 日	京都府戦没英霊追悼慰霊祭　　100 名参列〈於 リーガロイヤルホテル京都〉
〃	時局講演会 明治神宮国際神道文化研究所 今泉宜子先生 100 名出席〈於 京都ガーデンパレス〉
〃	清政 73 号発行
11 月 19 日	京都市会議員桜井泰広後援会 梶本部長出席〈於 ザ・プリンスホテル京都宝ヶ池〉
11 月 21 日	衆議院議員 勝目やすしの飛躍を期す会　梶本部長出席〈於 京都東急ホテル〉
11 月 26 日	京都市会議員中村三之助講演会 梶本部長出席〈於 ANA クラウンプラザホテル〉
11 月 28 日	第 34 回近畿神社庁連合総会　梶本部長出席〈於 ホテルグランヴィア和歌山〉
12 月 1 日	洛西支部神宮大麻暦頒布始奉告祭　梶本部長参列〈於 松尾大社〉
〃	当本部 杉本寿一綱紀委員 告別式 関係者参列〈於 公益社北ブライトホール〉
12 月 3 日	兵庫県本部時局講演会 梶本部長出席〈於 シーサイトホテル舞子ビラ神戸〉
12 月 7 日 ～ 8 日	沖縄京都の塔慰霊参拝団　24 名出席〈於 沖縄〉
12 月 9 日	神社庁教化委員会並び関係団体代表者懇話会 関係者出席〈於 京都府神社会館〉
12 月 21 日	役員会　20 名出席〈於 ホテルグランヴィア京都〉
〃	日本会議京都総会並び憲法改正研修会 本部長以下関係者出席〈於 ホテルグランヴィア京都〉

令和５年

1 月 14 日	京都市会議員桜井泰広君と左京区の未来を創る会 梶本部長出席〈於 京都市国際交流会館〉
1 月 20 日	中央本部役員会 梶本部長出席〈於 神社本庁〉
1 月 28 日	綴喜支部新年神職総会 梶本部長出席〈於 八百忠本店〉
1 月 31 日	京都府知事大嘗祭参列違憲訴訟 第９回口頭弁論 梶本部長傍聴〈於 京都地方裁判所〉
〃	京都府神社庁新年神職総会関係団体助成金交付式 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
2 月 9 日	滋賀県本部時局講演会 梶本部長・中嶋事務局長出席〈於 栗東芸術文化会館〉
2 月 11 日	紀元祭並び建国記念の日奉祝京都式典 梶本部長以下関係者出席〈於 京都府神社会館神殿〉
2 月 14 日	中央本部 第 21 回時局対策連絡会議 北川青年隊隊長出席〈於　参議院会館〉
2 月 17 日	京都市会議員寺田一博を囲む会　梶本部長出席〈於 ANA クラウンプラザホテル〉
2 月 18 日	京都府神社庁祈年祭　梶本部長参列〈於 京都府神社会館神殿〉
〃	伊勢神宮崇敬会京都府本部理事会評議員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
〃	美しい日本の憲法をつくる京都府民の会 企画委員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
2 月 23 日	天長祭並び天長節奉祝京都式典 梶本部長以下関係者出席〈於 京都府神社会館神殿〉
2 月 25 日	谷口みゆきを励ます会 梶本部長・大垣副本部長出席〈於 ホテルルビノ京都堀川〉
2 月 26 日	京都府議会議員渡辺邦子を囲む会 藤森幹事長出席〈於 ウェスティン都ホテル〉
3 月 5 日	参議院議員『佐藤正久新春の集い』梶本部長出席〈於 ANA クラウンプラザホテル〉
3 月 8 日	靖國神社慰霊参拝団 28 名参列〈於 靖國神社〉
3 月 11 日	京都府議会・京都市会神道議員連盟懇談会 講師：参議院議員 有村治子先生 57 名出席〈於 リーガロイヤルホテル京都〉
3 月 20 日	京都府議会・京都市会議員選挙候補者へ推薦状並び公約書送付
3 月 27 日	令和 4 年度京都府神社総代会総会 梶本部長出席〈於 ホテルグランヴィア京都〉
3 月 31 日	統一地方選挙（京都府議会・京都市会）告示日
4 月 6 日	中央本部役員会 梶本部長出席〈於 神社本庁〉
4 月 9 日	統一地方選挙（京都府議会・京都市会）投票日
4 月 17 日	京都府神社庁例祭、神社庁並び総代会関係者合同会議 梶本部長参列〈於 京都府神社会館神殿〉
4 月 18 日	京都府知事大嘗祭参列違憲訴訟第 10 回口頭弁論 中森事務局員傍聴〈於 京都地方裁判所〉
4 月 27 日	日本会議京都運営委員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
5 月 3 日	第 25 回公開憲法フォーラム 関係者出席〈於 京都府神社会館〉
5 月 7 日	洛東支部総代会総会 大垣副本部長出席〈於 ホテル山楽〉
5 月 9 日	吉田神社宮司 澤井隆男大人命 神社葬 梶本部長参列〈於 公益社南ブライトホール〉
5 月 18 日	志公会と語る夕べ 関係者 3 名出席〈於 ホテルニューオータニ〉
6 月 3 日	衆議院議員勝目やすしを育てる会 中嶋事務局長出席〈於 京都東急ホテル〉
6 月 6 日	京都府知事大嘗祭参列違憲訴訟 第 11 回口頭弁論 梶本部長傍聴〈於 京都地方裁判所〉
6 月 9 日	綱紀委員会並び財務委員会合同会議〈於 京都府神社会館〉
〃	役員会〈於 京都府神社会館〉
6 月 11 日	衆議院議員『田中ひでゆき君と共に語る集い』藤森幹事長出席〈於 京都ブライトンホテル〉
6 月 12 日	中央本部 役員会 梶本部長出席〈於 神社本庁〉
〃	中央本部 本部長事務局長連絡会 梶本部長・中嶋事務局長出席〈於 神社本庁〉
〃	故安倍晋三神政連国会議員懇談会前会長慰霊祭並び神政連国会議員懇談会総会及び懇談会 梶本部長・後藤、室川、大垣副本部長・中嶋事務局長・中森事務局員出席〈於 ホテルニューオータニ〉
6 月 13 日	中央委員会 梶本部長・後藤、室川、大垣副本部長・中森事務局員〈於 神社本庁〉
6 月 19 日	伊勢神宮崇敬会京都府本部理事会評議員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
〃	令和５年 第１回定例代議員会 67 名出席〈於 京都府神社会館＞
6 月 29 日	伊勢神宮評議員会 梶本部長出席〈於 神宮会館〉

時事一滴

副幹事長　久野義次

五月八日より新型コロナウイルス感染症の分類が五類に移行されたが、感染者数は増加傾向でもあり油断は出来ない。然しながら、三年以上にわたり規制や自粛ムードに縛られて来た行事・祭事等が、漸く本来の形で催されるようになり、国内観光客の増加に加え、海外からの観光客も戻りつつあることから景気回復が望まれる。

五月十九日、G7広島サミットが広島平和記念公園をはじめとする各施設で、各国の首脳を迎えて開幕された。G7首脳が史上初めて広島平和記念資料館を訪れ、慰霊碑に揃って献花された事は意義深いものがある。ロシアのウクライナ侵攻は未だ収まらない中、ゼレンスキー大統領も電撃的に駆け付け議論に加わった事。各国の首脳が原爆資料館を訪れ芳名録に記帳された事。

「核兵器のない世界」平和と自由な未来に向けて共有していただく事を願います。

Shinto Association of Spiritual leadership

神道政治連盟京都府本部会報

清政　第74号

発行日：令和５年７月20日
発行所：神道政治連盟京都府本部
〒616-0022
京都市西京区嵐山朝月町68-8
電話075-863-6677
編集協力：テンセイ・コモンズ
表紙写真：愛子内親王殿下のお印
「ゴヨウツツジ」